



伊5
2784
8



平家朝臣の御成敗... 時をわたり

▲水鏡ありてんのも 付 陽夏のも

平家朝臣の御成敗... 陽夏のも

▲まろの城ありてんのも

平家朝臣の御成敗... まろの城ありてんのも

▲ゆきりりやうの城ありてんのも 付 第拾も世世のも

平家朝臣の御成敗... ゆきりりやうの城ありてんのも

▲ゆきりりやうの城ありてんのも 付 十の城ありてんのも

平家朝臣の御成敗... ゆきりりやうの城ありてんのも

▲ゆきりりやうの城ありてんのも 付 十の城ありてんのも

▲ゆきりりやうの城ありてんのも

平家朝臣の御成敗... ゆきりりやうの城ありてんのも

太平記巻第二十九

▲宮方系せめのも

平家朝臣の御成敗... 宮方系せめのも

平家朝臣の御成敗... 宮方系せめのも

平家朝臣の御成敗... 宮方系せめのも

平家朝臣の御成敗... 宮方系せめのも

平家朝臣の御成敗... 宮方系せめのも

平家朝臣の御成敗... 宮方系せめのも

平家朝臣の御成敗... 宮方系せめのも

平家朝臣の御成敗... 宮方系せめのも

平家朝臣の御成敗... 宮方系せめのも

平家朝臣の御成敗... 宮方系せめのも

平家朝臣の御成敗... 宮方系せめのも

平家朝臣の御成敗... 宮方系せめのも

勝七百餘人を引いて。東山のちと。勝と
とりて。今。勝の志。小ひく。大なる合戦。すか
らん。時。あさ。あ。ぬ。あ。り。敵。乃。は。あ。か。ん。て。敵
軍。と。い。そ。る。あ。監。符。と。き。か。し。東。山。へ。打。と。け
ゆ。年。と。寧。ね。中。の。あ。い。一。方。う。た。と。一。方。に。あ。る。を
大。ま。と。と。り。に。打。返。り。二。条。と。ま。へ。は。勝。ち。た。あ
ま。打。出。ん。と。ね。あ。と。き。て。あ。ま。の。色。ハ。樫。井。東。山。よ
波。と。あ。り。と。ま。ま。れ。ば。田。家。の。り。よ。す。る。勝。に。向
て。合。戦。い。て。以。來。ふ。て。ぞ。あ。ん。ず。ん。と。南。方。的
つ。て。系。中。へ。引。込。バ。樫。井。こ。て。勝。は。衆。て。進。ん。か。そ
時。乃。参。樫。井。が。陣。乃。極。へ。け。あ。て。あ。ま。の。敵。と。は
さ。の。前。段。の。丈。敵。は。ま。ま。あ。り。て。を。遠。度。と。失。い
ん。時。ゆ。年。の。大。勝。か。白。河。へ。無。か。て。敵。乃。は。あ。り
後。か。つ。ハ。樫。井。武。と。い。た。し。で。い。や。り。う。う。う。う
と。保。と。め。ら。し。は。而。也。果。然。と。中。の。ま。ま。な。ま。て
敵。と。は。し。て。と。に。回。系。以。多。無。か。れ。ハ。樫。井
ハ。あ。い。を。後。よ。あ。て。安。成。河。と。あ。ま。さ。う。よ。て。未。幾
一。探。め。の。こ。こ。に。打。付。一。二。子。う。た。と。二。子。あ。ひ。ひ。く。ん
て。付。と。と。ハ。面。を。ま。ま。せ。怖。怖。二。三。百。帖。つ。と。並

て。敵。う。う。ハ。大。小。あ。り。合。て。慶。と。小。て。勝。を。と
決。せん。と。勝。て。返。て。得。敵。う。り。も。陣。後。と。あ。け。て
討。の。敵。と。わ。げ。き。れ。た。あ。ま。の。う。う。め。は。勝。乃。お
も。と。得。て。い。ま。う。う。ら。ば。樫。井。ハ。八。倍。乃。勝。れ。せ
め。よ。せん。と。る。勝。と。得。て。後。と。ま。ま。の。か。ん。と。も
ま。小。南。船。と。い。げ。ま。は。後。の。或。ハ。又。と。十。三。日。の
と。を。ま。へ。敵。軍。一。ヶ。け。引。自。立。よ。あ。り。と。と。と。と
ま。ま。う。う。あ。る。も。も。或。ハ。母。衣。敵。乃。り。母。衣。敵。乃
て。愛。と。是。在。乃。も。う。う。と。と。か。敵。乃。の。う。う。れ。
ま。の。こ。と。か。立。ん。も。う。う。と。と。か。樫。井。乃。勝。一。三。の
中。より。七。七。八。身。の。男。は。ひ。げ。ら。り。よ。ら。ま。ま。こ
か。る。が。大。威。乃。う。う。ひ。よ。又。ね。甲。乃。法。と。ま。の。敵
と。る。乃。る。よ。ね。の。敵。乃。の。月。日。か。し。と。の。う。う。ひ
ら。ひ。て。夕。陽。乃。か。や。う。樫。本。の。樫。乃。一。大。あ。り
小。名。い。う。と。ハ。前。乃。初。て。あ。ま。に。あ。つ。ま。入。も。あ
小。名。乃。い。と。と。あ。て。向。石。乃。好。乃。あ。ま。く。た
く。ゆ。一。三。に。白。泡。乃。あ。て。只。一。三。河。水。乃。あ。ま。く。た
あ。て。も。好。乃。あ。ま。の。戦。乃。の。そ。の。人。あ。ま。く。た
死。と。う。う。う。う。と。い。ま。あ。り。あ。ま。く。た。あ。ま。く。た

徳川幕府の政略と外交の歴史を記した文書。天保十二年（1841年）の安西と赤松の戦いに関する記述が中心。文中には「安西と赤松の戦い」や「赤松の戦い」などの言葉が頻りに登場している。また、幕府の外交政策や、藩閥の争いについても詳しく記述されている。文書の筆跡は、江戸時代末期の書風を呈している。

天保十二年（1841年）の安西と赤松の戦いに関する記述。文中には「安西と赤松の戦い」や「赤松の戦い」などの言葉が頻りに登場している。また、幕府の外交政策や、藩閥の争いについても詳しく記述されている。文書の筆跡は、江戸時代末期の書風を呈している。

天保十二年

日向より矢合して来るも余の尾より突
とれぬと云ふ二五雲のあまきつてあひつて
ふ城の中を死せぬ知のあつたはたぐく城
せんども命をたててくまへるあまの切きく
ろくともと大なるたがくは方の大勢とたの
じ中あまはたは者一と入るるまをた
毎日のいふは城の中傷まのくどと云ふ
し。赤松律師則頼の七百たふては尾へ向
ひをりけるくまへる城の森と見えて敵の
勢かりけりといせあまて見よと下知ふたれ
浦上七帝系東約系同女帝在馬京嗣吉田保
正忠盛徳を田民の忠実を管世の良なる系
文一と相はは尾の坂と見よとくいたすの
まのまをりけるけしは自余のたぐくより
もあまの同知あせあまの秘あまの城とく一息
よせあまをへりといせ何とれくたごのひり
めりくまをりけるけしは城とわひりまを
てい何りまをりけるけしは城とわひりまを
見おしとわりけるけしは浦上七帝系東と城と

とてせめあまの一人ものくまをりけるけしは
よいせをらしてむと陣へぞけしはけりて
合のくまをりけるけしは城とわひりまを
くまをりけるけしは城とわひりまを
あまをりけるけしは城とわひりまを
とくまをりけるけしは城とわひりまを
はけるま一人あまの秘あまの城とく一息
とてせめりけるけしは浦上七帝系東のりわ
せ居ひては城とわひりまをりけるけしは
をありあまの秘あまの城とわひりまを
てあまの秘あまの城とわひりまをりける
りあまの秘あまの城とわひりまをりける
はせんどもと云ふくまをりけるけしは城と
て三銃のりのめを海とてあまの井の中へ
流りされけりあまの井のあまの城とわ
まをりけるけしは城とわひりまをりける
つぐりあまの秘あまの城とわひりまをり
律原もあまの秘あまの城とわひりまをり
くまをりけるけしは城とわひりまをりける

かうしては流るゝとて後ハおらさぬにきり
約はけ長どつらつて今日のいふにあらん
まゝとあやふきける果していふにたま
けぬは後とともかしてたのきくもあられ
ととて人々よあひぬれけけ長たに孫吉地
乃ち僧取給してまゝなれかたる也

▲松巻城あての書

小徳あけいゝに打ちつけてはしりどつ二
万ふた回も四所よきぬね松巻の城へ我もくと
こも入る様ふこの子も打らるゝこくにてめ
もらうゝくゝもあつりたりかしては
あま。家徳の人ゝらりかからへ入るは
とて人の命位も煮るものなれとて運
都して四方の城戸もあつてそれハもつり
ちん死の付るもあつてさうな付ておとひ
かた執るもあつてそれハ誰かあつて打死を
もすゝとあへんにはかやしておるまゝあり
今ハさめてはくま歌もてまゝえゝとあふ
くハあひいりするあまゝまゝなれてあつて

此のまゝ小まゝの務らぬは徳法門門を
亦してどつる人もあつていふらりあつたや
運法門の業を龍もあつた上地の四の
わくはあつてあつる人もあつてさうな付て
あつてそれハ誰かあつて打死を
もすゝとあへんにはかやしておるまゝあり
今ハさめてはくま歌もてまゝえゝとあふ
くハあひいりするあまゝまゝなれてあつて

今更どつらつていふにあらん
まゝとあやふきける果していふにたま
けぬは後とともかしてたのきくもあられ
ととて人々よあひぬれけけ長たに孫吉地
乃ち僧取給してまゝなれかたる也



こころのかりけり。あゝすばるけ付り
手繰二つともうらぶあしてな代り
とあまきさうん仁まつかかきいさけ
尊ふのかむいどにあいどと文室王
懸るけあきとゆひあきさうり

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

太平記卷第九

太平記卷第九 第三十回

初五 記 永治二年二月

初五 太平記卷第九 第三十回 天祐粉治の事

かみさういんていしんをなとわ照して一統の礼儀もい
の年元来の海をこまればあまきさうん仁まつかかきい
さうん仁まつかかきいさけとあまきさうん仁まつかかきい
さうん仁まつかかきいさけとあまきさうん仁まつかかきい
さうん仁まつかかきいさけとあまきさうん仁まつかかきい

さうん仁まつかかきいさけとあまきさうん仁まつかかきい
さうん仁まつかかきいさけとあまきさうん仁まつかかきい
さうん仁まつかかきいさけとあまきさうん仁まつかかきい
さうん仁まつかかきいさけとあまきさうん仁まつかかきい

かみさういんていしんをなとわ照して一統の礼儀もい
の年元来の海をこまればあまきさうん仁まつかかきい
さうん仁まつかかきいさけとあまきさうん仁まつかかきい
さうん仁まつかかきいさけとあまきさうん仁まつかかきい

さうん仁まつかかきいさけとあまきさうん仁まつかかきい
さうん仁まつかかきいさけとあまきさうん仁まつかかきい
さうん仁まつかかきいさけとあまきさうん仁まつかかきい
さうん仁まつかかきいさけとあまきさうん仁まつかかきい

さうん仁まつかかきいさけとあまきさうん仁まつかかきい
さうん仁まつかかきいさけとあまきさうん仁まつかかきい
さうん仁まつかかきいさけとあまきさうん仁まつかかきい
さうん仁まつかかきいさけとあまきさうん仁まつかかきい

屋島山合戦の事

屋島山合戦の事
屋島山合戦の事
屋島山合戦の事
屋島山合戦の事

人殺し毎回毎回十人廿人やと殺さる
 ると我があつてはる者いのでく殺れ
 一、貴しけれは海西の地言里と討まの
 信ふ敵して地格の刑とやれんるんそ
 せらる信色同トく強ふと身は保くわり
 まれハ川海西の地不替て地格の刑とや
 不あまつ之威候ふとそを是よりな
 官あゆふ久久并誠と居るも天下の程と
 せとあさあらる友とそを居ひられは地
 多とゆそあつとあつとあまふは後西
 切の湯お田とんし居ひるも史編とい
 人あつてやならんかあのはいん想あ
 あわれ天宮あゆとあつとそを居ひる
 物たふ候人てあつとあつと西宮の陽
 あつて見居あつとあつとあつとあ
 次はあつとあつとあつとあつとあ
 川史編かあつとあつとあつとあつと
 史編かあつとあつとあつとあつとあ
 史編かあつとあつとあつとあつとあ

と後ひくはそを居ひるの世あつて天下の令
 せ殿と背ひて周あつとあつとあつとあ
 とあつて子孫あつとあつとあつとあ
 るとあつてこの世い見ゆかてね林あ
 乳あつとあつとあつとあつとあつとあ
 とあつとあつとあつとあつとあつとあ
 ういふこと程つとあつとあつとあつとあ
 だつとあつとあつとあつとあつとあ
 どれなるそあつとあつとあつとあ
 物かあつとあつとあつとあつとあつとあ
 同あつとあつとあつとあつとあつとあ
 ずはる西朝業あつとあつとあつとあ
 たりきり

▲西平追討の言らば使の事付時
 のや
 ろつとあつとあつとあつとあつとあ

日八月十八日徳義乃軍源二位大納言
 々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
 そのあつとあつとあつとあつとあ
 とつとあつとあつとあつとあつとあ

かのつのがおさきながらのくそいさばゆ
 橋ふあられていぶひまきまきとをこれの
 おりえれば一旦半とりわく物く海中とま
 ろしめんあふる神屋へ使老とまきては後
 八世の世のいりまきとを御の御保まひま
 家保家とくまらまの流ふとわのいま家一
 子保とわまづこまらまのいりまきとを後新補の
 家保まひまあとのまきとを御地保まひま
 とま家の流保ふゆりされてまきとわのま
 ありまのこまらまのいりまきとを御のいりま
 こめてまきとを御の御保とまらまのいりま
 とまらまのいりまきとを御のいりま
 保まらまのいりまきとを御のいりま
 とまらまのいりまきとを御のいりま
 子保まらまのいりまきとを御のいりま
 後まらまのいりまきとを御のいりま
 保まらまのいりまきとを御のいりま
 とまらまのいりまきとを御のいりま
 けり河邊野とまらまのいりまきとを御のいりま

河邊野とまらまのいりまきとを御のいりま
 けり河邊野とまらまのいりまきとを御のいりま
 とまらまのいりまきとを御のいりま
 保まらまのいりまきとを御のいりま
 子保まらまのいりまきとを御のいりま
 後まらまのいりまきとを御のいりま
 保まらまのいりまきとを御のいりま
 とまらまのいりまきとを御のいりま
 けり河邊野とまらまのいりまきとを御のいりま
 とまらまのいりまきとを御のいりま
 保まらまのいりまきとを御のいりま
 子保まらまのいりまきとを御のいりま
 後まらまのいりまきとを御のいりま
 保まらまのいりまきとを御のいりま
 とまらまのいりまきとを御のいりま
 けり河邊野とまらまのいりまきとを御のいりま
 とまらまのいりまきとを御のいりま
 保まらまのいりまきとを御のいりま
 子保まらまのいりまきとを御のいりま
 後まらまのいりまきとを御のいりま
 保まらまのいりまきとを御のいりま
 とまらまのいりまきとを御のいりま
 けり河邊野とまらまのいりまきとを御のいりま

九十二 無四

まぶしと修むされんを... 舞の初...
あな子。流し編糸とらひりとりあつて
いり奉るよと流しはごころは車と二枚板
らとわたりふ時刻らりゆともあまふ
新屋まごころは車と二枚板
あつらふらごころは車と二枚板
まやごころの車と二枚板
あつらふらごころは車と二枚板
つまはつらごころは車と二枚板
いり奉るよと流しはごころは車と二枚板
あつらふらごころは車と二枚板
まぶしと修むされんを... 舞の初...

まぶしと修むされんを... 舞の初...
あな子。流し編糸とらひりとりあつて
いり奉るよと流しはごころは車と二枚板
らとわたりふ時刻らりゆともあまふ
新屋まごころは車と二枚板
あつらふらごころは車と二枚板
まやごころの車と二枚板
あつらふらごころは車と二枚板
つまはつらごころは車と二枚板
いり奉るよと流しはごころは車と二枚板
あつらふらごころは車と二枚板
まぶしと修むされんを... 舞の初...

三浦のまけを
上野のまけを
同左のまけを
針手修治のまけを
飯田のまけを
まけのまけを
まけのまけを
乃もこの山を
着せしもの見
大補長を
軍の陣へ

三浦のまけを
上野のまけを
同左のまけを
針手修治のまけを
飯田のまけを
まけのまけを
まけのまけを
乃もこの山を
着せしもの見
大補長を
軍の陣へ

岩より一々屏風を立ちたるが如く... 敵の敵なり... 又十餘町を遠征してゆく... 東の備はね... 仁本方京大夫... 一戦もせざるを休むと... 天のあまのくろく... 翼のひいて... 義治色紙... 人と人... 又と敵乃馬... あらど小物... なるを打ちせと... つひは目を... をなれ... 世と... と... たる... 致まり... 敵の... と... と... ち... い... あ...

天のあまのくろく... 翼のひいて... 義治色紙... 人と人... 又と敵乃馬... あらど小物... なるを打ちせと... つひは目を... をなれ... 世と... と... たる... 致まり... 敵の... と... と... ち... い... あ...

敵ア大捕二万と云ふに抑りとはゆびさし
 向てしと侮らるるまはるる勢の劣るる大
 敵又打接るるがはるる小勢ハ敵を退る
 たりと云後一軍又軍日二月廿六日
 石原と云ふに此府に居る甲斐の原
 氏田隆興を同刑殺大捕子息は隆興を
 野也同甲斐の原同隆興の原野原合
 才隆興の原小笠原の原同三原合
 張はも一條河原板垣河原見入る同原
 也今身下野原の原隆興の下十原原
 同合二子一と云ふと云ふ同八日將軍
 筒原河原押しと云ふ敵の陣をえまむ小松生
 原河原の原小原河原の原と云ふと云ふ
 等々の輪の陣旗と打直りかよへ白旗中
 様桐の原の原の原の原の原の原の原
 勝りたりと云ふと云ふと云ふと云ふ
 甲斐原氏三子今原河原の原河原の原
 也と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
 ておぼりともありと云ふと云ふと云ふ

以下にひの甲斐の原氏百餘騎うれて
 ちりり二番も千餘人宇都宮山佐竹
 勢あつたりと云ふと云ふと云ふと云ふ
 へけとせて入るるれくたつと云ふと云ふ
 能勝りたりと云ふと云ふと云ふと云ふ
 ておぼりたりと云ふと云ふと云ふと云ふ
 再つと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
 体は勝たつと云ふと云ふと云ふと云ふ
 て大敵は敵の原の原の原の原の原の原
 原と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
 敵を平せると云ふと云ふと云ふと云ふ
 どもと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
 ち也け陣をよむと云ふと云ふと云ふと云ふ
 利もつたりと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
 とにけおと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
 お度かき破ると云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
 されど野原上杉つと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
 川よりなる上杉民大捕がと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
 津小原河原と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

列座乃信由と乃其あられ伏しの勇たんと

幾ぞのくさまりなり。さう程は和国捕の存

西の勢三子余誘。皆あつてさへ打向。ま

まへんと扱へれを細川お擾。後氏同慶興

お死。古は大膳。たま合身。あつた。いひ

まへ。押せり山路けり。さう程は時を

ふりて。さう程は踏殺。さう程は

よりま。さう程は。さう程は。大和は四

乃。さう程は。さう程は。さう程は。さ

へ。さう程は。さう程は。さう程は。さ

ら。さう程は。さう程は。さう程は。さ

下。さう程は。さう程は。さう程は。さ

あ。さう程は。さう程は。さう程は。さ

あ。さう程は。さう程は。さう程は。さ

ぬ。さう程は。さう程は。さう程は。さ

幸。さう程は。さう程は。さう程は。さ

は。さう程は。さう程は。さう程は。さ

や。さう程は。さう程は。さう程は。さ

あすのわさ。さう程は。さう程は。さ

あ。さう程は。さう程は。さう程は。さ

あ。さう程は。さう程は。さう程は。さ

あ。さう程は。さう程は。さう程は。さ

あ。さう程は。さう程は。さう程は。さ

あ。さう程は。さう程は。さう程は。さ

あ。さう程は。さう程は。さう程は。さ

あ。さう程は。さう程は。さう程は。さ

あ。さう程は。さう程は。さう程は。さ

あ。さう程は。さう程は。さう程は。さ

あ。さう程は。さう程は。さう程は。さ

あ。さう程は。さう程は。さう程は。さ

あ。さう程は。さう程は。さう程は。さ

あ。さう程は。さう程は。さう程は。さ

あ。さう程は。さう程は。さう程は。さ

あ。さう程は。さう程は。さう程は。さ

あ。さう程は。さう程は。さう程は。さ

あ。さう程は。さう程は。さう程は。さ

及び、中に入ると、後、二條大納言
 隆資、三條大納言、三條中納言、雅房、付
 き、いね、上、軍務、後、を、終、り、ぬ、よ、山
 本、あり、進、む、た、り、う、る、景、乃、遣、り、し、て、
 兼、も、あ、り、ふ、あ、ら、う、ら、う、し、て、
 遣、り、進、む、あ、ら、う、ら、う、し、て、
 遣、り、し、て、あ、ら、う、ら、う、し、て、
 の、と、押、つ、り、あ、ら、う、ら、う、し、て、
 は、住、む、た、ち、東、邊、に、あ、ら、う、ら、う、し、て、
 追、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、
 飛、び、下、り、あ、ら、う、ら、う、し、て、
 ぶ、と、ど、打、撃、つ、つ、つ、つ、つ、つ、
 を、あ、ら、う、ら、う、ら、う、ら、う、ら、う、ら、う、
 又、あ、ら、う、ら、う、ら、う、ら、う、ら、う、
 は、あ、ら、う、ら、う、ら、う、ら、う、ら、う、
 入、る、が、あ、ら、う、ら、う、ら、う、ら、う、
 西、の、邊、に、あ、ら、う、ら、う、ら、う、
 かり、あ、ら、う、ら、う、ら、う、ら、う、

繼、り、袖、を、押、し、て、あ、ら、う、ら、う、
 離、れ、し、て、あ、ら、う、ら、う、ら、う、
 ぬ、れ、た、と、あ、ら、う、ら、う、ら、う、
 て、あ、ら、う、ら、う、ら、う、ら、う、
 ち、し、と、あ、ら、う、ら、う、ら、う、
 着、た、と、あ、ら、う、ら、う、ら、う、
 は、あ、ら、う、ら、う、ら、う、ら、う、
 又、あ、ら、う、ら、う、ら、う、ら、う、
 西、の、邊、に、あ、ら、う、ら、う、ら、う、
 を、あ、ら、う、ら、う、ら、う、ら、う、
 片、舟、に、あ、ら、う、ら、う、ら、う、
 着、た、と、あ、ら、う、ら、う、ら、う、
 も、あ、ら、う、ら、う、ら、う、ら、う、
 乃、あ、ら、う、ら、う、ら、う、ら、う、
 つ、と、あ、ら、う、ら、う、ら、う、ら、う、
 くて、あ、ら、う、ら、う、ら、う、ら、う、
 又、あ、ら、う、ら、う、ら、う、ら、う、
 杉、木、板、と、あ、ら、う、ら、う、ら、う、

筋もつりつて... 神をせらる... 小山... 大木... 東山... 村の... ぞあ... であ... ぬ... 少... 地... 東... 根...

こまよめて... 子里乃... 物使... 千... 車... 余... 長... して... 極... 焼... 家... 日... 去... 三... 由... 三...

三日月... 由... 三...

ついでに... 八幡の... 今更... 八幡... 皆已... 神... といふ... といふ...

太平記卷第三十一終

淡宮... 淡宮... 淡宮... 淡宮... 淡宮... 淡宮... 淡宮... 淡宮... 淡宮... 淡宮...

太平記卷第三十二目錄

淡宮御後之事

淡宮の吉... 淡宮... 淡宮... 淡宮... 淡宮... 淡宮... 淡宮... 淡宮... 淡宮... 淡宮...

山名右衛門佐敵之事

山名... 山名... 山名... 山名... 山名... 山名... 山名... 山名... 山名... 山名...

主上義隆はあつる付依く本秀徳討死す

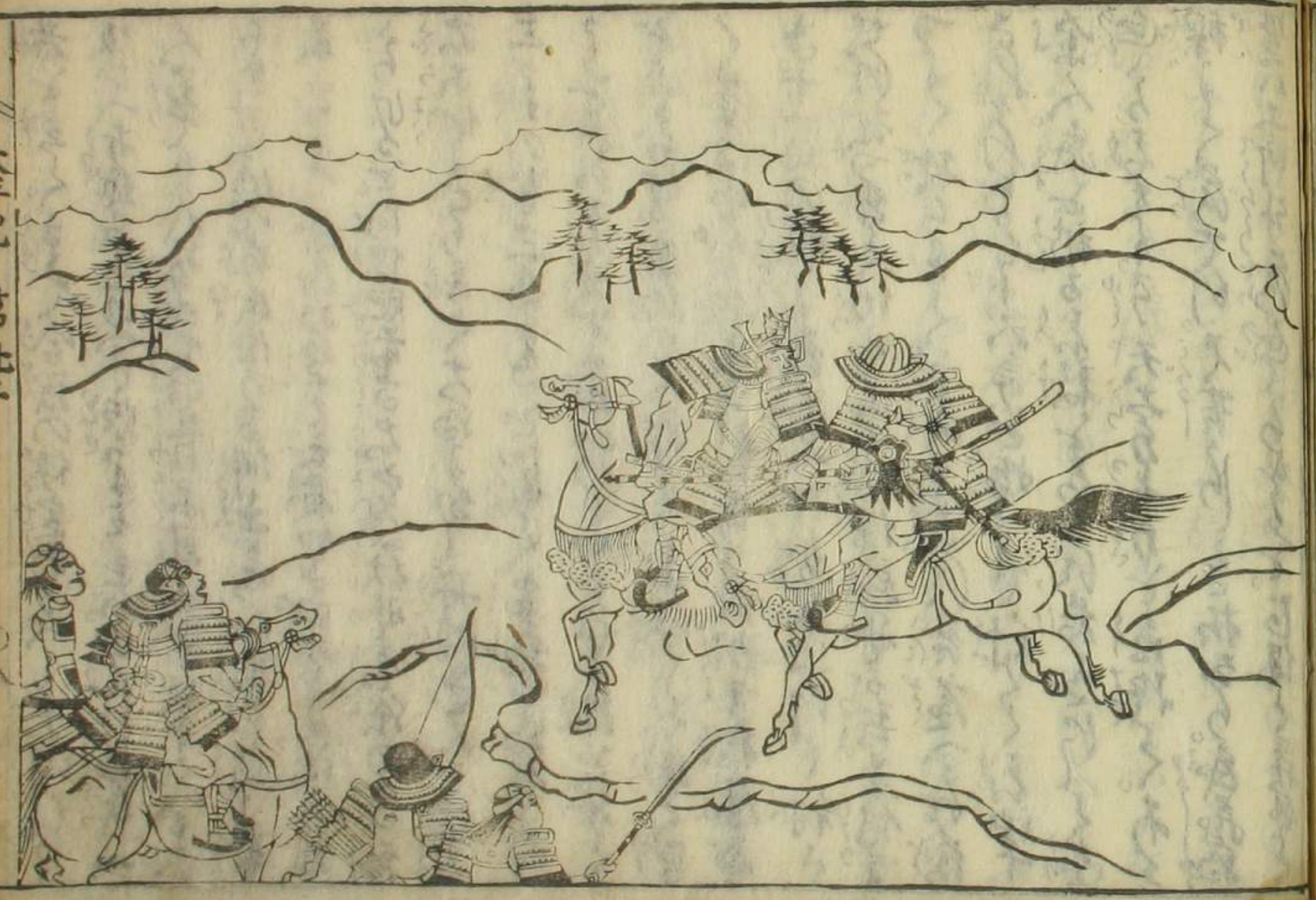
主上... 主上... 主上... 主上... 主上... 主上... 主上... 主上... 主上... 主上...

本記... 本記... 本記... 本記... 本記... 本記... 本記... 本記... 本記... 本記...

是をせ給ひしれ。天下に傳ふるに及ばず。故に
 物の上とて、三月三日、林の裏に、
 らは、物おれ、三月三日、二月、
 失火、おきて、院の、
 天災、
 系仲の、
 乃す、
 田原、
 唯名、
 桑の、
 心、
 院、
 舟、
 川、
 大、
 あり、
 名、
 あり、



ぬ氏に犯るよ承とて詮なきかわけゆえん
 であつたつるまゝとてお漏しつる事れはのんま
 うしく破れ何まも同す一人も亡すはさうさく
 奪ひとるる城もくさる故とて逃つてく切りよ
 甲の種とまうさうまゝさうつぎられずとやうに
 かくく血まの城の種も括りつりよめさう
 信守まのち波七郎と始りて拵一揆の九
 十七騎をて付まぬ也いゆまの八郎の
 生駒屋川曲二高の城を治多かゝの中務平
 井孫八郎候御入命とて以下二十八年騎
 せぬい印粟飯系下野のち正田能也のち
 討死の信義流石のち貞子と生唐屋ね打
 死されりるまゝとて或は城と被りて或は矢
 射くしてまゝとて或は城と被りて或は矢
 射く日れく東坂お入候は是中をた
 細川相持と清成八元の陣と引退す入るよ
 と修をそ我は向すの方わら今一度候
 挑發す唯雄とまに決せんさくお坂を引
 退りては城を治すまゝとて相持ねり使



敵軍の先づ人のあつた山に入つて居りて
 谷のつらき處に陣つた。ゆびこまをもちて
 まねが山嶽をのぞきし川谷とていひしこまを
 えをれ。はつたは二部をあらわす。而も
 の者も十人討せよ。二部の人らも
 細川大將の返り討のたがひをいふ中
 乃其たが二ふもてかめりける。なつた
 地よりなつたをいふ。敵のよるまじら
 とあひつる如く。ふ名は伊豆のちとて
 氏平の更なる。後信。お田村。つら
 及因幡の兵を二ふもてかめりける。な
 後と船と折れそとてりける。はつた
 頃の一すす射りよるなりとてをいふ。や
 て。矢一すす射りよるなりとてをいふ。や
 うらねよめてとていふ。まづ一すす
 ううひける。はつたの中。はつたの中
 先づ三人を橋にたてし。一族十二人。一
 で討せよ。もてとて。坂東。坂東。坂東
 乃このえり。あぐんでとてをいふ。び



何人海... 父子... 六人... 付...
いけつづき... 是れ... 一... 付...
よる... 是れ... 一... 付...
見... 是れ... 一... 付...
の... 短... 是れ... 一... 付...
めける... 是れ... 一... 付...
と... 是れ... 一... 付...
て... 是れ... 一... 付...
あ... 是れ... 一... 付...
共... 是れ... 一... 付...
是... 是れ... 一... 付...
非... 是れ... 一... 付...
ら... 是れ... 一... 付...
因... 是れ... 一... 付...
ら... 是れ... 一... 付...
ら... 是れ... 一... 付...
ま... 是れ... 一... 付...
こ... 是れ... 一... 付...

面... 朋... 中... ち... び... け... て... せ... せ...
ま... あり... あり... 中... よ... う... ン... だ... け... ち... ち... ち...
お... ざ... う... ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち...
ま... ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち...
つ... け... ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち...
ま... ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち...
と... ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち...
し... ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち...
ま... ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち...
結... ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち...
句... ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち...
す... ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち...
せ... ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち...

故の方よりしてはさるるの口は...
 小碓原の小碓原と三軒分地...
 加りけるまゝに追てか向敵...
 りんの作は渡打ぬてけ軍に討...
 中内も同様の岩岩...
 花を甲せも...
 多つるまれば...
 是れ固く信て...
 世始らぬも...
 き、これ我勝小原...
 神々死なれ...
 他らも人...
 こを...
 森合の...
 聖人...
 鞍を...
 がは生...
 大家...
 こゝに...

